

令和4（2022）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）

種名	コブダイ	対象水域	日本海
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター	担当機関名	

1. 調査の概要

コブダイは、北海道～九州西岸の日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海、北海道～九州南岸の太平洋沿岸、朝鮮半島南岸・東岸南部、済州島に分布する（馬淵 2018）。このうち、本報では、青森県～島根県沿岸の海域（兵庫県日本海側沿岸を除く）を対象に調査した。本報では、青森県～島根県におけるコブダイの各府県*1調べの2021年月別漁業種類別水揚量により近年の漁獲状況を把握した。*1 青森県は日本海沿岸～陸奥湾の主要21港、石川県は主要10港、富山県および福井県は一部漁港のみの集計である。また、各府県において水揚げはごく少量であり、他魚種を混在した集計値の可能性はある。

2. 漁業の概要

府県調べの漁獲情報に基づき、2021年の各府県の四半期別漁獲量を図1および表1に示した。いずれの府県も年間漁獲量は2トンに満たなかった。その中、1トン以上の漁獲があったのは石川県、島根県であり、次いで青森県、京都府、新潟県で漁獲されていた。また、多くの県では、春（4～6月）と夏（7～9月）の漁獲量が多かった。

次に、各府県における2021年の月別・漁業種類別の漁獲量を図2および図3に示した。

青森県では、1月、4～6月、12月が多く、刺網および定置網・底建網で主に漁獲されていた。

新潟県では6月にピークがあり4～8月にやや多く、刺網、釣り・延縄で主に漁獲されていた。

石川県では、6月にピークがあり5～7月が多く、刺網で主に漁獲されていた。

京都府は1、2月が多く、定置網で主に漁獲されていた。

鳥取県は11月にピークがあり、釣り・延縄で漁獲されていた。

島根県は、4～7月の漁獲が多く、刺網、釣り・延縄で漁獲されていた。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：本種は、北海道～九州西岸の日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海、および北海道～九州南岸の太平洋沿岸、朝鮮半島南岸・東岸南部、済州島に分布する（馬淵 2018）ことから、本対象水域の全域に広く分布すると考えられる。岩礁域に生息している（馬淵 2018）。
- (2) 年齢・成長：日本海における知見はないが、瀬戸内海では1歳で体長140 mm、3歳で220 mmに成長するが、その後の成長は遅く、10歳で300～400 mmに成長する。17歳の雄では590 mmに至る（Ochi et al. 2017）。確認された最高齢は31歳である。
- (3) 成熟・産卵：雌性先熟の雌雄同体と考えられており、雌として3歳で成熟するが11歳で機能的雄に性転換する個体が現れる（Ochi et al. 2017）。GSIの変化等から産卵期は6月と考えられている。
- (4) 被捕食関係：貝類や甲殻類などを食べる（馬淵 2018）。

4. 資源状態

刺網、釣り・延縄、定置網などの沿岸漁業で、ごく少量漁獲されていることは本調査により示されたが、いずれの漁業も本種を主対象としてはおらず、資源量指標値は得られていない。漁獲量は、対象水域全体でも10トン未満であり、漁獲動向の把握すら困難な状況である。

5. 資源回復などに関するコメント

市場による漁獲量集計があったのは、大型個体の前額部が瘤状に突出することが広く知られていることによると推察されるが、一度に水揚げされる数量は少なく、他魚種と便宜的に合算されている集計値である可能性が高いため、データを十分に精査することが不可欠である。また、対象水域では生態学的知見も乏しいが、調査研究は現時点では困難と考えられる。機能的な雄が出現するまで産卵から11年かかるため若齢魚の保護は必要であり、瘤がない若齢魚の形態の認知度を上げることが大切である。

6. 引用文献

- 馬淵浩司 (2018) スズキ目ベラ科コブダイ（コブダイ属）. 「日本魚類館」中坊徹次編, 株式会社小学館, 東京, 333.
- Ochi, Y., Y. Fukui, Y. Sakai and H. Hashimoto (2017) Age, growth and reproduction of the Asian sheepshead wrasse *Semicossyphus reticulatus* in the western Seto Inland Sea, Japan. *Ichthyol. Res.* **64**: 415-422.

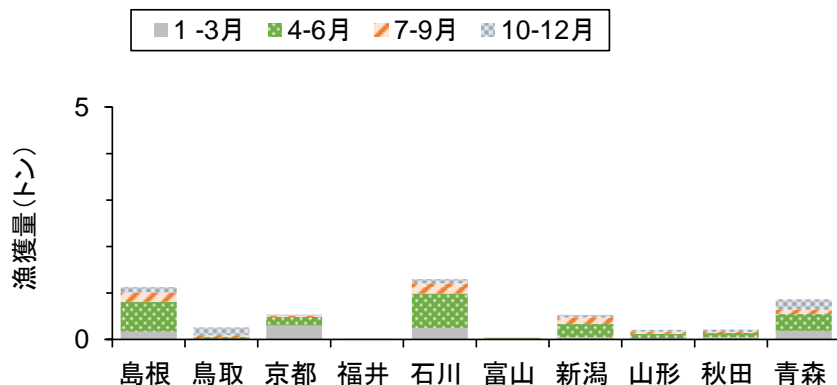


図1. 日本海の府県ごとのコブダイの四半期別漁獲量（2021年）
 2022年に調査を実施した府県調べの値を示した。各府県において、他魚種が混在している集計値の可能性はある。

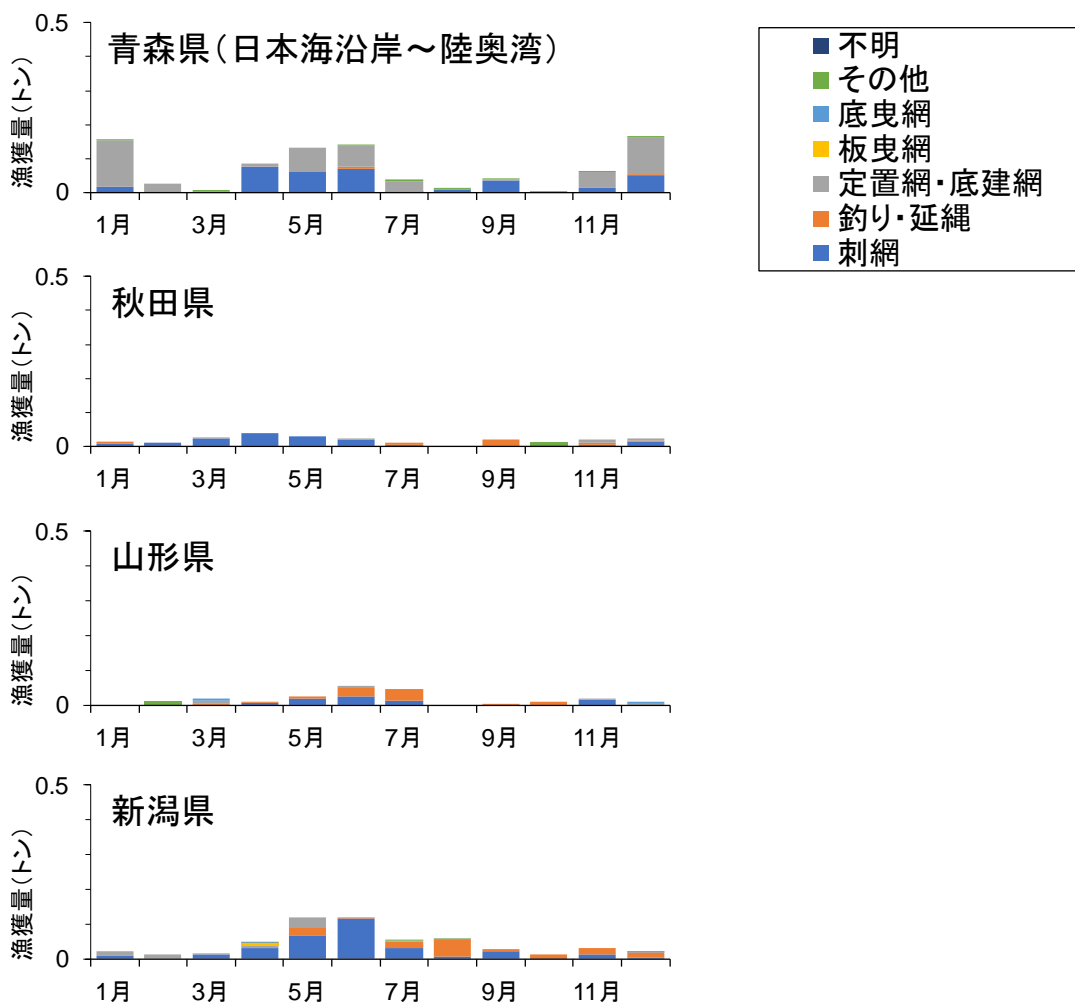


図2. 日本海北部の各県におけるコブダイの月別漁業種類別の漁獲量（2021年）
 2022年に調査を実施した県調べの値を示した。富山県は年間漁獲量が0.1トン未満であり示していない。また、他魚種が混在している集計値の可能性はある。

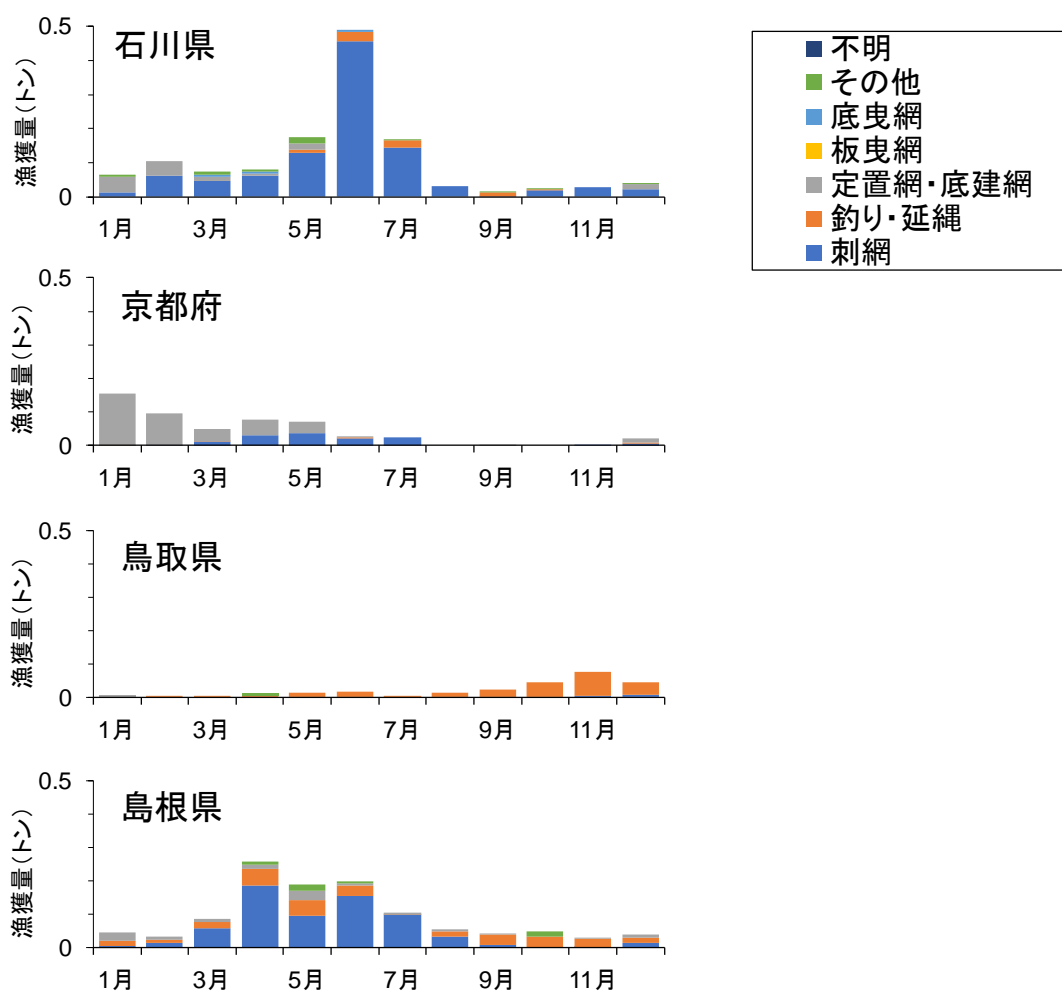


図3. 日本海中西部の各府県におけるコブダイの月別漁業種類別の漁獲量（2021年）

2022年に調査を実施した府県調べの値を示した。福井県は年間漁獲量が0.1トン未満であり示していない。兵庫県は水揚げ集計値がない。また、他魚種が混在している集計値の可能性もある。

表 1. 日本海の各府県におけるコブダイの月別漁獲量（2021年）（kg）

	青森県	秋田県	山形県	新潟県	富山県	石川県	福井県	京都府	鳥取県	島根県
1月	156	12	0	21	9	65	0	155	3	46
2月	25	11	10	11	9	106	1	95	5	32
3月	4	26	18	13	1	73	1	48	3	85
4月	85	37	9	47	6	79	0	81	10	257
5月	133	29	26	120	5	176	1	75	14	189
6月	139	22	56	118	3	490	0	29	17	199
7月	38	9	45	54	0	167	0	26	2	104
8月	13	0	0	56	0	33	0	0	14	54
9月	41	18	4	28	0	16	0	1	23	43
10月	3	10	10	13	0	25	0	0	44	48
11月	61	20	19	29	0	30	0	3	77	27
12月	165	22	10	21	2	39	0	20	44	38
年計	863	214	207	530	35	1,300	3	533	256	1,123

2022年に調査を実施した府県調べの値を示した。兵庫県は水揚げ集計値がない。また、他魚種が混在している集計値の可能性もある。なお、対象水域と隣接する山口県における年間漁獲量は2,322 kgである。